

2019 年度盛岡 YMCA 全体事業方針・計画

◆ 基本聖句 喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。

ローマ信徒への手紙 12 章 15 節

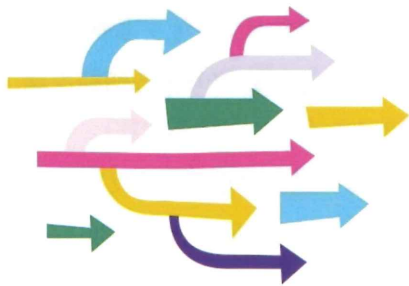
◆ 前文

盛岡 YMCA は、創立以来、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現に取り組んで来ました。

今、私たちが生きる日本は、少子高齢化による人口減少社会、そして格差社会が進行し、こどもや高齢者、障がい者、外国につながる人びと、社会的に弱くされている人びとの人権が軽んじられるなど、人と人との結びつきがますます希薄になりつつあります。また、世界に目を向けると、自然災害や紛争などにより多くの人の安全と平和が脅かされています。

私たち盛岡 YMCA は、未来へと希望をつないでいくために全国の YMCA の仲間とともに掲げた新ブランドスローガンの「みつかる。つながる。よくなっていく」体験を一人でも多くの人に届けます。一人ひとりの良くなることが関わる人の喜びとなり、つながりを深め、身近な人の痛みや、社会・世界の課題を他人事から自分事に変える力となって、出会った人を笑顔に変え、喜びが連鎖する「ポジティブネット」※1のある社会を目指していきます。

また、YMCA が大事にしてきた人権や平和、そして環境への取り組みを世界の仲間と連帯して実現していくため「誰も取り残さない」と国連が提唱する SDGs (持続可能な開発目標) ※2 の運動に連なって活動を進めていきます。



※1 「ポジティブネット」とは：2017 年から日本の全ての YMCA が同時に掲げたビジョン。互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。課題の多い社会の中で、それは生きるためのひとつの選択肢となっていく。日本の YMCA は、地球規模のネットワーク基盤を生かしてポジティブネットを広げ、希望あるより豊かな社会を創ります。

※2 SDGs とは：「Sustainable Development Goals」の略で、国連が提唱する持続可能な社会開発のための 17 のグローバル目標。これまで YMCA や NGO 等が進めてきたことが、より具体的に社会とつながりあっていることを示し、国だけでなく企業や市民も参画して問題解決しようとする世界的チャレンジ。

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

2030 年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

2019年度、盛岡 YMCA は、「ポジティブネットのある社会」を実現するため以下3つの事業方針を定め10の事業計画に基づいたアクションを開始します。

I YMCA 経験者を増やす

「盛岡 YMCA の使命を日々の働きの中で具体的に実践していくことを通し YMCA 理解者、経験者を増やす。このことにより YMCA の伝えたい価値をより多くの市民に伝える。

1 (ボランティアに参画する機会を増やす)

YMCA 運動を推進する維持会員を増やす。また小学校高学年、中高生、ユース、シニアに至る全ての世代がボランティア活動への参画する機会を増やす。

2 (プログラムに参加する人間を増やす)

盛岡 YMCA が行うプログラムの内容を充実させ、参加した人びとの満足度を上げる。このことにより、良い評判を作り、YMCA のプログラムに参加する人を増やす。

3 (YMCA と協働する団体を増やす)

国連が提唱する持続可能な社会開発のための17のグローバル目標SDGsの実現に向けて盛岡 YMCA として積極的に取り組むとともに、地域の諸団体とつながりともに協力して地域社会での浸透、推進を図る。

4 (社会的に弱い立場に置かれている人々に寄り添う機会を増やす)

互いを認め合い、心を開き、分かち合い、すべての人に開かれる YMCA としてポジティブネットのある社会の実現に努める。特に社会的に弱くされている人びとや孤立している人びとに寄り添う活動を諸団体と連携して取り組む。

II YMCA をより深く、長く経験してもらう

プログラムの参加者並びにその家族に対して盛岡 YMCA が伴走者※3としてより深く、長く関わっていくことができるように、盛岡 YMCA の組織としての伴走力※4を強化する。

※3 YMCA とプログラムの参加者との関係を単にサービス提供者、受益者という関係で終わらせることなく、共に「みつかる。つながる。よくなっていく。」ことでポジティブネットのある豊かな社会を創造する市民として成長していけるよう、YMCA がこども、家族の伴走者、パートナーとしてより深く、長く関わっていける関係性を築くこと。

※4 伴走者として関わりは、YMCA は古くから行ってきたことであるが、これまでは、関わる個人の努力に依拠することが多かった。これを研修ならびに運営する仕組みを整えることにより、一部の個人の力に依るのではなく、盛岡 YMCA に関わる全ての人々が YMCA の一員としてポジティブネット社会の実現に向けて力を発揮できるように組織としての伴走力を構築していくこと。

5 (より深く関わる)

盛岡 YMCA に関わる人びとの間のコミュニケーションの質を高める。

6 (より深く関わる)

特に、YMCA プログラムに参加する子どもたちの家庭とのコミュニケーションを強化する。

7 (より長く関わる)

今後、日本の YMCA が進める「子育てと子育て」伴走プロジェクト※5をスムーズに内容の伴った形で推進できるよう、全国の取り組みに先駆けて盛岡 YMCA としての取り組みを開始する。

※5 従来は、子どもの心身の成長を願うとき、大人の視点である「子育て」を中心に考えがちだった。これに対し「子育て」とは、本来子どもが生まれてきた世界を感じ、学び、自身で育とうとする生来の力を大切に、子ども自身の発育や知性、感性の発達に目を向けること。「子育てと子育て」伴走プロジェクトは、「子育て」「子育て」両方の視点に目を向けながら子ども、家族、そしてその家族が暮らす地域の伴走者として YMCA がより深く、長く関わっていくこと。

III 盛岡 YMCA をよくする。盛岡 YMCA のビジョンを立てる。

盛岡 YMCA の課題を整理、改善するとともに盛岡 YMCA の中期計画を策定し、盛岡 YMCA の今後すすむべき方向性を定める。

8 (ビジョンを明確にする)

盛岡 YMCA の中期計画を定める。盛岡 YMCA が何を目的とし、その実現のために具体的に何をどうしていくかを関わる一人ひとりが共通理解を持って、運動を推進していけるようにする。

9 (課題を整理し、制度を整える)

YMCA 運動を推進する、一人ひとりが健康的に、充実感をもって運動に関われるように働き方改革の推進に取り組む。総務機能を充実させ、事務の簡略化、ICT※6化、会議の持ち方、研修制度を見直す。

※6 「Information and Communication Technology」の略。IT よりも通信技術が活用したコミュニケーションの重要性を強調している。

10 (組織基盤を強化する)

盛岡 YMCA の推進する運動をより地域社会から理解や信頼を獲得するため、認定 NPO 法人の法人各を取得する。